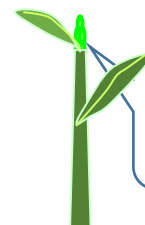


いもち病・カメムシの防除は適期に！

本年は育苗期間から好天に恵まれ、水稻の生育は順調に進みましたが、主茎の生育が特に進んでおり、1株内の主茎と分けつ茎に大きな生育の差が見られます。今後、いもち病・カメムシの同時防除が始まりますが、主茎の出穂から分けつ茎の出穂まで例年よりも時間がかかることが予想されることから、分けつ茎の出穂を確認し、防除を実施しましょう。

第1回目の防除 出穂期：出穂率40～50%（例：1株当たり25本ある場合、
10本出穂した日が防除適期）

第2回目の防除 第1回目の7～10日後



穂が止葉の葉耳より出た日が出穂

北海道病害虫防除所からの情報では、いもち病、カメムシの発生は平年より早く、発生量も多くなると予報されています。いもち病は、BLASTAMによる葉いもち感染好適日では、名寄地域は6月22～23日が「準感染好適日」に該当しています。

今後、水稻の出穂を確認し、適期防除に努めてください。